

2020年7月20日

九州から日本を動かす! Move Japan forward from 九州! (106)

日本は高齢者社会の先進国、そして飯塚は国内でも高齢化率の高い地域ですからまさに世界の先進地の一つなのです。

ここには都会には無い、温かさ、安心、安全の実態が有ります。最近は新型コロナウイルスの感染者も発生していますが、飯塚に戻ってくるとホッとしている自分の変化に気がつきます。

地元医師会との信頼、連携は強く、救急患者は飯塚病院が診て、通常の患者は開業医及び地域の病院がまずは対応してくれます。そして院内にはソーシャルワーカーが患者さんの転送先の施設や病院のケアマネージャーと密に連絡を取り合い、退院の日時を早めに伝え、転送先の準備状況の確認、気をつけることなどをしっかり連絡していくので患者さんも安心です。出来れば自宅に戻りたいのが人情の中、地方都市ですので家庭内に自宅療養のためのスペースが比較的大きくあります。患者さんの自宅に出向いて治療や看護を担当する訪問スタッフは顔見知りです。こうしたリハビリや看護師スタッフはベテランの人も多く70歳代後半までは現役で働けると私は強く思っています。働いているから元気なのです。学習もしっかりとしています。生涯学習、生涯現役、生涯収入という三つを実現できれば本当に素晴らしい事だと思いますし、実行・実現させてみたいものです。

私は飯塚市を「高齢者が住み続けられる街」にしていきたいと狙っています。そんなに難しいことではないと思います。自分が現在73歳でそうした生き方を実現出来る世代なだけにこうしたプランは楽しみです。

高齢者を出来るだけ外に連れ出してあげて活動をして、というフレイル予防活動も飯塚市は熱心です。東大の飯島勝矢教授も飯塚市の活動に注目されています。フレイル予防サポーターという応援団が飯塚には多いのです。近隣のイオンが場所を提供してくれるという支援体制も出来ています。

在宅勤務がこれから進んでいく中で、大都会には無い、自然、落ち着き、安心、そして生活コストの低さなど、私は飯塚市に「六掛け負担で倍人生」という魅力、強みを感じます。福岡市の六掛け、東京の夕食代やマンション代と比較すれば半分以下、四掛けくらいで生活が出来ると思います。雇用の創出という大きな課題を飯塚市が克服できれば、いまだに人口増が続いている福岡市に隣接しているという強みも加わり、全国でも実に珍しい地方都市として「高齢者比率は高いが人口が減らない街」に出来るのではないかと秘かに狙っています。

さて、あと20年くらいは生きようと思っていますが、飯塚市を住み続けられる街にしていけるかどうか頑張りたいと思います。

麻生 泰